

くしまっ子

4人で知恵出し地道に研究 7月の全国大会で発表へ

未来の発明家誕生!?



実験がうまくいくまで何度もテストを繰り返します

県高文連自然科学プレゼンテーション大会で最優秀賞を受賞した福島高校科学部の4人。この大会で出場権を獲得し、今年7月に開催される文化部のインターハイ「全国高校総合文化祭」に向けて4人はさらなる研究に励んでいます。

取り組んだ研究テーマは「小水力発電のモデル実験。実験装置となる循環型水路を作成し、水車の羽の形状や枚数、水に浸かる深さなど、さまざまなパラメータを振

るなどして、効率よく回転する条件を探っています。研究を始めたきっかけは、地域の課題解決策などを調査する「地域創生学」の中で、再生可能エネルギーの調査に取り組んだこと。その中で小水力発電のことを知り、興味を持ちました。「実験は試行錯誤の連続」という4人。実験装置はすべて手作り、水車は形状など実験条件を変えるたびに作り変える必要があります。また、予算が少ないため、材料も身近にある木材やCD、プラ製の段ボールなどを集めて使っているといいます。



24. 福島高校科学部

(上段左から) 倉爪 駿成さん、野村 海斗さん
(下段左から) 渡辺 通日さん、中山 美久理さん

地域おこし協力隊

活動日記

vol.24

未来の福島高校を描く「地域創生ゲーム」

清山 美咲さん



こんにちは。地域おこし協力隊の清山美咲です。一昨年の4月から2年間、串間の高校生に「地元への愛着を高め、地域の課題を主体的、対話的に解決していくためのスキルを身につけてもらいたい」という想いから福島高校「地域創生学」の授業に関わっています。

昨年の12月、2年間の「地域創生学」ですべての学びを振り返るために、地域創生クラスの3年生を対象に「地域創生カードゲーム」を実施しました。地域創生カードゲームとは「2023年(4年後)、福島高校が「日本一面白い、地域創生に向けた取り組みをしている学校」として全国から注目を浴びている」という設定で、福島高校でどのようなことが行われているのか具体的なアイデアを考えるゲームです。2年間の学びを楽しく振り返りながら、学んできたことを次につなげてもらいたいという想いから、このゲームを開発しました。

福島高校が地域創生や防災の拠点として串間に欠かせない学校となるためのアイデアが多く出されました。学校が「知識を与えられる場所」から「一人ひとりの可能性と地域の可能性を広げる拠点」として地域に開かれた学校へと変化していくために「地域創生学」では試行錯誤の中でさまざまな学びと実践が繰り返されています。協力隊としての活動も残り半年となりましたが、これからも私にできることから、福島高校の取り組みを応援していきたいと思っています。

生徒から出されたアイデアを見てみると、



認知症支援へ地域一丸目指す

市社会福祉協議会が取り組む地域支援

厚生労働省の2016年国民生活基礎調査で、介護が必要になった主な原因として初の1位となった「認知症」。2025年には患者数が700万人前後に達すると試算されています。こうしたことを背景に、国が認知症施策の一つとして取り組んでいるのが認知症地域支援推進員の設置です。2018年4月から全国の市町村に配置が義務付けられ、串間市では14年から活動を開始し、認知症支援を行っています。

現在、推進員として地域の皆さんや関係機関と一体となって、認知症支援に取り組んでいる深江ちかえさんは、認知症を切り口として誰もが安心して暮らすことができる地域づくりを目指して活動しています。深江さんは2年前まで社会福祉法人に勤務し、介護支援専門員として介護を必要とする方々が自立した生活を送るための支援を行ってきました。しかし、この仕事に携わるうちに「公的なサービス提供だけでは、生活全般にわたる支援をしていくことは難しいということを実感した」という深江さん。地域全体で支援する体制づくりの必要性を感じ、地域と関わり深い社会福祉協議会で認知症地域支援推進員として活動を始めました。

推進員の仕事は、認知症の方やその家族への支援、理解を図るための啓発活動、関係機関との連携など多岐にわたります。特に市民への啓発には力を入れており、認知症を正しく理解し適切な支援ができるように認知症サポーターを養成するための講座を開催し、延べ1800人を超えるサポーターが誕生しています。また、毎年開催している高齢者徘徊模擬訓練では地域住民にも参加していただき、問題点や課題を共有することで地域の理解を深めています。活動を続けて3年目を迎えますが、問題意識の低さなど課題も増えてきたといいます。「地域での取り組みを広げるためにも、子育て世代など若い人たちの積極的な関わりが必要。地域全体で協力し、支える関係性を作れば、認知症の方やその家族も声を上げやすくなる」と深江さんは話します。

今後ますます認知症は増加する傾向にあります。「家族や関係機関だけで支援していくのは限界がある。本人や家族にとってより良い支援につなげられるように、自分の持っている経験を生かしながら役割を果たしていきたい」と深江さん。認知症の人が安心して生活できる支援体制づくりにこれからも懸命に取り組みます。

深江 ちかえさん (福島地区・上郡元)

市社会福祉協議会で認知症地域支援推進員として認知症支援に取り組む。「まずは行動」が信条。大東・下園田出身。



認知症サポーターの証オレンジリング



市木地区で実施された徘徊模擬訓練の様子



串間で活躍する人を
紹介します
きらめき 図鑑
kirameki